

2020 年和鉄の道・Iron Road を振り返って *by Mutsu Nakanishi*

2020 年掲載 和鉄の道 9 件 風来坊 10 件 四季折々 From Kobe 8 件

2020 年は何といても世界的大流行を引き起こしているコロナ禍に振り回された 1 年。未だ終息の見通しが立たず。切実にわが身の生命の危機を感じたことはなし。感染防止の常時マスクをつけての「3密」行動自己規制の家籠り。中国・アメリカ・欧州では軒並み 都市封鎖・ロックダウン。日本でも外出自己規制・商店の営業規制ならびに学校や老人施設・病院などクラスター発生に伴う閉鎖等厳しいコロナ封じ込め策がとられ、医療従事者の懸命な治療が続いていま



すが、まだ道半ば。もう経済も町も人も世界的にどこもかしこも日頃の暮らしがいつ取り戻せるのか見通しが立たぬ状況にある。コロナが終息してももとは戻れず、ポストコロナの新しい変革の時代にいやおうなしにさらされるだろう。一方、世界はモノづくりの時代からグローバル・情報通信の高度情報化社会 効率とスピードそしてあくなき利潤追求の強欲資本主義と呼ばれる時代が進んでいる。気が付いてみると格差が広がり、人が取残される厳しい時代に。この間に世界では中国が飛躍台頭し、GAFA と呼ばれる一握りの巨大世界企業群に利益が集中し、牛耳られる時代に。この GAFA が席卷するのは情報通信に IT・AI を駆使するプラットフォーム。

G AFA の利益はほかには波及せず。よく言われる利益のトリクルダウンは生じない。強欲資本主義も頂点に。彼らが大きくなればなるほど人の居場所がなくなる。その兆候はすでに始まり、格差社会の急伸が表れ始めている。世界の指導者はグローバル化から自国第一主義に転じ、また GAFA の規制に乗り出しているが、GAFA に対抗できるのだろうか??? そんな中で起きたコロナ禍による世界的な経済・社会破壊にさらされている。

また 地球温暖化による自然災害も世界規模で凶暴で牙をむきだした。口先でクリーンエネルギー投資などと唱えるだけではどうにもならず。先の国際化の波の中で投資がおろそかになった国土やモノづくりは疲弊しきっている。

いやおうなしに新しいイノベーションを伴う社会構築に踏み出すことが必要であろう。

今の老獪な年寄り指導層ではどうにもならぬ。そのほころびは既に日本の科学技術の遅れ、モノづくり企業の著しい競争力低下(特に日本の中核を担ってきた大企業の没落) 教育の低下等々・・・。

出でよ!! フレッシュな若者たち!! である。かつて「まずは やってみなはれ!!」と教えてくれたリーダー達。「みたり 聞いたり ためしたり」と突っ走り、モノづくり革命を成し遂げた若者たち。その熱気と爽快感を今の若者たちへ。情報・通信革命で手に入れた若者たちが果実を 自己から外へ目をふり向ければ、必ずや この時代を切り開くイノベーションが生まれる。若者たち 前向いて突っ走れ!! とエール!! を送る。

私のライフワークとして、ずっと取り組み、多くの人たちに教えてもらってきた和鉄の道。

ユーラシア大陸の西端で生まれた「鉄」がユーラシア大陸の草原の道を東遷して日本にまで伝わった。

「鉄の起源・ユーラシア大陸アイアンロード」その先々で、新しいイノベーションを糧に新しい鉄文化を作りだし、今に続いている。鉄の惑星地球36億年 地球の上で、繰り広げられてきた鉄の歴史・鉄と人のかかわりの歴史です。そこには「ヒューマン」と呼ばれる互いが互いを思いやる心の歴史があり、それこそ人類が生き延びてきた道だと示している。 そんなことを強く感じつつ、見聞したことを書き綴った2020年でもありました。

コロナ禍の中で、好奇心いっぱい訪ね歩いた「和鉄の道・Iron Road」&「風来坊・Country walk」そして そんな中で、見聞きし、頭に浮かんだことをそのまま書き綴った「四季折々 From Kobe」

全く独りよがりの気の向くままの風来坊ですが、一年を通してみ見ると また新たな顔も見えてくる。

何はともあれ、コロナが早く終息することを祈ります。

また、ここ数年 親しい仲間が次々と先立って旅立って、そんな仲間を思いしのぶことも多くなりました。

この一年 私にとっては喜寿になり、頭は回らなくなりましたが、多くの方々 仲間を支えられ、健康で元気に動けること本当に感謝です。まだまだ 好奇心はある。足も動く これからも元気に前向いてと。よろしくお祈りします。

なにか 毎度くどくど同じことを書いているようでご免なさい。 God be with You!!

2021.1.5. 2020年の資料を前に いろいろ思い浮かべつつ

Mutsu Nakanishi

以下に2020和鉄の道 home page のトピックスから 1 年を振り返りました。

2020年 和鉄の道 Iron Road トピックス

2020年和鉄の道掲載記事 9件

1. 「鉄の起源・鉄の伝播探求<< ユーラシア大陸を東西に結ぶ鉄の道 Metal Road >>

私のライフワーク <<和鉄の道・たたら探訪>> 「鉄」をキーワードに Country Walk

その中心Itemの一つが鉄の起源と日本のたたら製鉄の源流 鉄の日本への伝播経路の解明

「鉄の起源・ユーラシア大陸の東西を結ぶ金属器&鉄文化東遷の道」探求 2009~2019

愛媛大学東アジア古代文化研究センターが村上恭通センター長を中心として、2007年以來10数年推進してきたユーラシア大陸諸国との共同連携プロジェクト。毎年その成果報告会が国際シンポジウムとして開催されると知って、毎年聴講させていただき、報告される新しい成果に胸わくわくで聴講記録を取らせていただきました。

この毎年の聴講記録を一冊に集成し、系統的に読み出せる記録として、私蔵版の電子Book化させていただきました。

「鉄の起源・鉄の伝播探求<< ユーラシア大陸を東西に結ぶ鉄の道 Metal Road >>

人口鉄の起源聴講記録	2007~2019 7件 + 関連和鉄の道掲載記事2件の合計9件
ユーラシア大陸の東西を結ぶ 金属器&鉄文化東遷の道聴講記録	2007~2019 13件 + 関連和鉄の道掲載記事4件の合計17件



- ◎ たたら製鉄の源流 塊煉鉄法の製鉄技術がユーラシア大陸の草原ステップ地帯を東遷して、中国・日本にまで伝播する様子が製鉄遺跡の遺構・遺物で草原の道として明らかになった。
砂漠地帯のオアシスをつなぐシルクロードも考えられるが、人・物・製鉄炉・採業が連続的につながらねば技術伝播がつながらぬことを考えるとむづかしく、通商路と伝播路の違いがあると考えられる。
- ◎ これらの調査の中でユーラシア大陸中央草原の支配者 遊牧の民 匈奴の功績は大きく、略奪国家と見られたモンゴル帝国は製鉄技術を有し、大量の強靱な鋼製武器を有する鉄の大帝国。
遊牧の民モンゴルが中国「前漢」と対峙する大帝国との姿も明らかになった。

長年にわたる関係各国共同の現地発掘調査等に基づく遺構・遺物の積み重ねによる数々の多くの発見と知見すでに、その都度和鉄の道・Iron Roadに掲載してきましたが、聴講記録を一冊にまとめることができ、すべての成果を系統的に読み出せるようにできました。うれしい一区切りに。

村上先生ほか聴講記録を取らせていただきましたプロジェクトメンバーの皆様には本当に感謝です。

また、本年4月NHKBS「アイアンロード~知られざる文明の道~」(前・後編)として、本プロジェクトの成果を中心とした番組が美しい映像放映されました。併せて、私にとってはうれしい私蔵記録となりました。

また、ユーラシア大陸鉄文化東遷の道となったステップ地帯の草原の道の個々で新しい鉄のイノベーションを生み出し、新しい鉄文化をその地に根付かせつつ伝播していったことも特筆される。

特にモンゴルと前漢との激突の中で、それぞれが鉄の大量生産と強靱化両立の新しいイノベーション。

それが新しい社会を切り開き、現在の製鉄のベースにあることも特筆すべき発見。そして、日本に伝来した鉄も同じく、「人とモノが行き交う交易ネットワーク」を作りだし、弥生の新時代を生み出した。

2. 「弥生時代は500年さかのぼれる」ことがもたらした衝撃の新弥生時代の時代感

弥生時代水田稲作の始まりはBC9世紀 北部九州で鉄器のない水田稲作からBC4世紀鉄器による水田稲作へ
 〈新〉弥生時代時代感の変更 弥生時代は「イネと鉄」の文化から「イネと石」の文化への転換

「縄文は平和 弥生は戦さ」の時代認識は過去のもの 心優しき日本人の気質は今にまで受け継がれている



水田稲作の始まり 縄文人と弥生人が共生していた大阪湾猪名川河口弥生の集落群 口酒井・田能・勝部遺跡ほか 弥生の村から縄文顔の土偶出土 神戸市西区 玉津田中遺跡の発掘現場 171号地点を訪ねる

コロナ禍の中で、人類が幾多の困難を克服し、乗り越えてきた原動力は「他人を思う心・ヒューマン」
 そして、「日本人の心の故郷 縄文 心優しき縄文人」「鉄とともに水田稲作の弥生時代・弥生時代は戦の時代」

とのフレーズ。でも「大阪湾沿岸では弥生人縄文人が共生して水田稲作を広げていった」との和鉄の道の記事も掲載しました。そして「弥生時代は少なくとも500年遡れる」ことが発表されてもう10数年。新しい時代感が言われる一方、「弥生は鉄と水田稲作そして戦の時代」の弥生の時代感が根強く残っている。

コロナ禍の中 心優しき縄文人 日本の縄文を世界遺産に!! と言ってきたこともあって「弥生の戦」がずっと引っかかて来た。

「日本の心の故郷 心優しき縄文」から「日本の心の故郷 心優しき日本人」と言いたい。

弥生遺跡の話が出るといつも「縄文と弥生の共生」が気になった。

2020年西神戸の弥生の大集落田中遺跡から縄文の顔をした弥生の土偶が出土。また、弥生人と縄文人が共生していたと知られる口酒井遺跡ほか猪名川河口の弥生の集落遺跡群の人骨・墓からみた縄文・弥生人の共生を調べた展示が田能遺跡で開催。

引っかかっていた新弥生時代の時代感 もう一度しっかり確認して古い弥生の時代感を払拭したいと。そんな思いを込め藤尾慎一郎氏著「〈新〉弥生時代 -500年早かった水田稲作-」を教科書に新弥生時代の年代と時代感の整理。

併せて、縄文の顔をした弥生の土偶が出土した弥生の大集落田中遺跡と弥生人と縄文人が共生していたと知られる口酒井遺跡ほか猪名川河口の弥生の集落遺跡群 walk の記事掲載。

縄文人も弥生人もみんな心優しき日本人 日本の心の故郷だと。

またこのコロナ禍の中で お互い共生の中で8000年もの長い永続社会を作った日本の縄文のユネスコ世界遺産登録になることを願っています。





コロナ禍による「3密」防止の自己行動規制によって、遠くに出られず。

同窓会も落語会も仲間の飲み会もみんな中止 毎年の母校の高校野球観戦も 総合運動公園のイベントも
プロ野球もラグビーも観客制限で 神戸の街の華やかなイベントもアウト そして ついに年末のルミナリエまで 秋にはコロナ終息の根拠税むなく いまだに終息見通せず。唯一は 西六甲に近い我が家 春夏秋冬 せっせとコースを変えまた、今年ほど季節感がずれたのも気になります。

毎年兵庫西神戸の風物詩として 紹介してきた四季折々の花は外れればなし。

これもコロナのせい??? いやいや 地球温暖化で地球全体が少し変わってきたようだ。

これだけ狂ってきたら季節はどうなるのやら…気象庁も鳥や花・木で季節感を知らせてくれていたのを来年から大部分発表から削除するという。それはないよ

ああ 鶯鳴いた・セミ泣いた・目白につばめ・鶉も来る。 春の訪れ 水仙・蟬梅・梅・桜・菜の花・つつじ・石楠花・レンゲ・春のバラそしてアジサイ・夏の高山植物・朝顔・ハオハブ そして秋 稲穂・彼岸花に蕎麦の花・コスモス・秋のバラ・野路菊 そして 柿の実に野鳥そして紅葉が始まるとイチョウに山茶花・椿の冬到来

毎年楽しい季節の移ろいもどう変わるのでしょか… これから 咲く時期はもっと複雑になるのでしょうか…

まだまだ好奇心も健在の毎日 walk。でも 早くコロナが終息するよう。

みんな コロナに負けずに乗り越えよう!!

1. 2020 神戸の春便り 新型コロナウイルス蔓延 家籠りの春三月 2020.4.1.

神戸の街にもコロナウィルス蔓延の兆し 遠出は避けての家籠
例年とは違う神戸の春到来に 孫たちもうずうず 京都の家で合宿することに
目まぐるしく移り行く美しい春の息吹 人込みを避けての毎日 walk に春を探す



2. 6月 梅雨の合間 神戸梅雨時の Country walk 2020.6.5&16.

コロナ神戸家籠りの中で気分も晴ればれ コロナ禍で半分あきらめていましたが、今年もうれしい出会いに

3. 播磨/但馬の境生野峠の北但馬 朝来市竹田 に小さい秋をさがして2020

天空に浮かぶ竹田城再訪 但馬実りの秋の田園風景 2020.9.4
山上の城郭石垣群がきれいに整備され、見晴らす郷は実りの秋 日本の原風景 うれしい小さい秋 みつけ

4. 西神戸・東播磨 加古川岸の田園 稔りの里の秋巡り 小さい秋をさがして

彼岸花が畔を飾る実りの田園地帯 一面黄金色の田園地帯の里の秋 2020.10.2.
西神戸から 加古川西岸に里山が続く志方の里&小野町きすみ野へ

5. 2020 秋コロナ禍の中で 西国街道 武庫川麓の渡し 2020.10.11

尼崎にもこんなゆったりと時間が流れる緑の草原がある
国道 171 号線武庫川甲武橋東岸周辺 六甲を背にした甲山の眺望 & この秋 河川敷に出現した草原

6. コロナ禍の秋 表側の神鉄鶴越駅から 六甲全山縦走路を菊水山に登る 2020.10.13.

私のミステリー-Walk 鶴越-烏原-菊水山登り口-菊水山-鈴蘭台

山麓バイパス鶴越バス停をスタートに表側の鶴越から烏原を抜けて菊水山へ登りました。

7. コロナ禍の秋にほっと一息 東播磨 秋の風物詩 志方の郷のコスモス 2020.10.15.

加古川西岸に広がる東播磨志方の郷 黄金色の田園地帯「一面ピンクのコスモス畑を送電線が渡りゆく」
実りの秋を愛でるかのような志方の郷の秋景色 ここ数年で一番の美しいコスモス畑の秋景色でした

8. 須磨離宮公園 2020 年秋のバラ 2020.10.28. [Photo Album](#) にしてゆっくり秋の夜長を楽しむ
色鮮やかな大輪のバラ その香りとともに一機にリフレッシュ

9. 私の秋送り 2020.11.10.兵庫県花「野路菊」2020 横尾山山腹 野路菊の丘
横尾山腹を真っ白にして晩秋 の散歩道を楽しくしてくれる

10. きつい きついと言われる摩耶山黒岩尾根に登る 2020.11.9.

2020 秋コロナ禍の中で 摩耶山へは登りがつつく長いコース

摩耶山へは登りがつつく長いコースですが、知らなかった摩耶山の魅力発見の登山道



2020年 更新ページを飾った思い
高齢者の劇症化 命の危機が我が身に迫る
密閉・密接・密集の「3つの密を意識した自制の実践」
「うつらない うつさない」
マスク・手洗い・三密空間に近づかない
コロナに負けるな!! 自己の行動節制の毎日
仲間にも思いを馳せています



一番必要なところの声を救い上げることができぬ日本の社会

自らの実践がない響かぬ日本の施政者の・TVの声 似非専門家の影が見え隠れ

本当の専門家の声の届かぬ刹那の情報化社会のほころびが見えたコロナ禍

高度成長の昭和・日本独り負けの平成を経て いまだに昭和の成功体験にしがみつく日本

人が作るモノづくりからグローバル・国際化の波の中 人を外す刹那の通信・情報化社会に突き進んだ日本

頂点同調を強調しつつ 何もかも自己責任 一番大事な人の暮らしを無視した社会に

判断・知恵を放棄したと見える日本の日本高度情報化社会

世界的コロナ禍感染大流行の真ただ中にある欧州 ドイツメルケル首相の声が心に響く一年でした。

「・・・せねばならない。考えています。専門家の答申を受けて検討します。責任があると承知します」
何度聞いたことか・・・。この言葉の中には「…です」の言葉がない。

「自分が行動する やります」がない責任転嫁に終始する言葉だから誰の心に響かない。

具体的な行動はせいぜい「指示した」「報告を受けています」どまり。チェック等自分の行動は何もなし。
それが今の日本を席卷する頂点同調の悪癖です。

ぶつぶつ1年間同じことを言い続けた From Kobe でした。

次の選挙には立たぬドイツメルケル首相のコロナに対して 国民に寄り添い、呼びかけた演説を耳にして、
感動とともに、ギャップの大きさにショックでした。

「ねばならぬ 承知している 考えています」等日本の施政者の常とう句が全くないのです。

まだ先が見えぬコロナ禍の取り組みの参考にも 全文を一度よんでいただければ・・・と。
2020年コロナ禍の中で コロナ禍対応 心に響いた一文です。

コロナ禍の中 心に響いた一文

2020.12.31. ドイツメルケル首相のコロナ禍で 最後の新年演説

国民に「心の底から感謝」「愛する人たちを守ってください」 2020.31.インターネットより
心の底から申し訳ない。けれど到底容認できません

「どれだけ多くの人か愛する人を失い、

最期にそばにいることもできなかったか、

社会として忘れることは許されない。

私にはその痛みを和らげることはできないが、

今も思いを寄せている」と語りかけ、

新型コロナウイルスで家族や友人などを亡くした人たちに

寄り添う気持ちを示しました。

そのうえで、最前線で働く医療従事者のほか、スーパーマーケットや公共交通機関、

それに警察などで働く人たちに感謝の思いを伝えました。

(メルケル首相演説 インターネットより入手した訳文 別添付)



2020年 Home page 更新毎に top の言葉に何を発信しようか…と考えるのですが、
2020年はコロナ禍一色でした。

でも、コロナ禍の中で、今まで見えなかった日本の社会の歪もここかしこ

非正規雇用が約3割を越える日本の社会 自己責任 多様な働き方改革と胸を張る施政者・大企業家たち
本当に日常の暮らしに目をむけているのか…とわびしくなった1年。

ひそかな格差の進行と雇用不安が現実問題として噴出した日本 これからどうするのか…

日本が手本としてきたアメリカ アメリカ第一主義を掲げたトランプ政権の行き詰まり・崩壊とそれこそ利己的な
中国の巨大化と進出に国際社会も大揺れ。

そこにもう待たなしの状況の地球温暖化による地球規模の気象異常と度重なる激甚災害の頻発。

国際協調が一番必要な時にどうなるのか…

コロナを早く終息して、新しい国際秩序作りの担い手とイノベーションを進めねば…

それがまた、一番必要なのが同時進行で高齢化が進む日本。

ポストコロナの社会・経済そして人の暮らしの安定化復興をもたらす革新的イノベーションが必要に。

そんな日本の課題が次から次へと噴出したコロナ禍。

明日を信じて、スクラム組んで もうひと働き そんな一年。

何やかや言いながら、2020年のトピックスまで、ぶつぶつ。 本当に厳しいコロナ禍の一年
みんなで スクラム組んで。

Peace on Earth 鉄の惑星地球 今地球規模のスケールでポストコロナを

絶滅を繰り返してきた多くの生物の中で

人類が生き延びてきた道が 鉄と共に唯一人類だけが「相手を思う心」「ヒューマン」を
持ち合わせていたことにあった。

過酷な今の時代に人々が忘れ、捨てようとしていることが、
唯一人類が生き延びてきた道。

人類の危機・生命の危険に直面したコロナ禍の中で、
その重要性が見直され、ポストコロナのキーワードとして
見直され始めた「相手を思う心・ヒューマン」

「鉄の惑星地球」産業の側面ばかりでなく、

時代時代の中で いつも人の営みに欠かせなかった「鉄」
このポストコロナの新しい時代に必ずや鉄は新しい顔を見せ、
新しい産業を生むに違いないと期待している。

そんな鉄の姿も追ってみたい、

考えたこの一年でした。



とりとめもないことばかりですが、気持ちだけは前向いと。

また、困難の中にある仲間思いを馳せつつ エールを送ります

仲間がいる 仲間の元気はみんなの応援歌 みんなでスクラム組んで 元気に今を

God Be With You!!

いつになく 静かな年の暮れ いつもの散歩を楽しみながら

From Kobe Mutsu Nakanishi

1月 日本人の心の故郷「縄文」・そして太古から国土・海を豊かにしてきた「鉄」に思いをはせて
地球46億年 鉄の惑星地球 この激動・変革の時代に新しい姿を見せる「鉄」に希望を託す
【From Kobe 1月年賀】 2020年迎春 年の初め

日本人の心の故郷「縄文」・そして太古から国土・海を豊かにしてきた「鉄」に思いをはせて
地球46億年 鉄の惑星地球 この激動・変革の時代に新しい姿を見せる「鉄」に希望を託す

◎ 和鉄の道・Iron Road 「閃光」と「肌光」鉄のまばゆい輝きに希望を託す

2月 澄み渡る須磨の空 庭には春の草花そして梅の花も咲きだして 春もすぐそこに
でも インフルエンザ・新型肺炎が猛威を奮っています

3月になればすぐ仲間の同窓会・同期会 嬉しい春が待ち遠しい。

巷ではインフルエンザ・新型肺炎が猛威を奮い、まもなく花粉が飛び交うとの警報も。

でも嬉しい春がもうすぐそこに。

毎日のように山から須磨の海を眺めると気にかかるのは気候変動による激甚災害・地球温暖化のこと。

今日はどこまで見通せるか・・・もう毎walkの日課。

体調の変化にご留意 本当に何もかも 高齢者には厳しい令和の春 お互いスクラム組んで 前向いて

【From Kobe 2020 早春2月 春迎え】 春はもうすぐそこに

● 収録 嬉しい春の訪れ、気にかかるは我が身の健康と地球温暖化のこと

.....まだ新型コロナは他人事だった1月末

2月になって、クルーズ船のコロナ感染の拡大とその厳しさが報道されるにつれ

我が身にも生命の危険をかんじるように。ついに、例年の3月7日の同窓会も中止に

3月 2020 神戸の春便り 新型コロナウイルス蔓延 家籠りの春三月

目まぐるしく移り行く美しい春の息吹 新生の息吹に満ちる春景色。でも 高齢者には厳しいこの春
新型コロナウイルスに負けないで頑張らねばと人混みを避けての毎日の須磨界限walk に春を探す

【From Kobe 2020 3月 神戸の春便り】 新型コロナウイルス蔓延 家籠りの春三月

● 収録 弥生3月 新型コロナウイルス蔓延 家籠りの春三月 Photo Album

4月 コロナウイルス蔓延の厳しい春 命の不安の中で迎える令和2年度の始まり

4月新生の息吹に満ちて我が家の庭も春色に コロナの脅威を一機に吹き飛ばせと

新生の息吹に燃える春の草花は みんなの応援歌

なんとか みんなの力で早く収束できますように God Be with You!!

【From Kobe 2020 4月 令和2年 新しい門出とで合いの春】

でも 厳しいコロナウイルス蔓延の厳しい春に

● 収録 A 1. 神戸の桜2020 中央区宇治川添いの桜並木 & 須磨板宿 妙法寺川岸 桜のトンネル

2. 正確なコロナウイルスを知るために 知人が送ってくれたyoutube アニメ動画

● 収録 B コロナ理解私見【参考まで】「みんながみんな接触数8割削減でコロナ終息へ」

7月 ひまわりの夏 高齢者の劇症化 命の危機が我が身に迫る

密閉・密接・密集の「3つの密を意識した自制的実践」

「うつらない うつさない」 マスク・手洗い・三密空間に近づかない

仲間に思いを馳せています



ひまわりの夏 2020



こうへ総合運動公園

明石海峡を見下ろす丘 ひまわり畑で

みんながみんなこっちを向いて

よお〜! コロナに負けるなと 笑顔のあいさつ

【From Kobe ひまわりの夏 2020 】ひまわりの夏 新型コロナウイルス蔓延の中で

- 収録 ■ 5月中旬・6月のコロナ禍の中で 神戸籠り by Mutsu Nakanishi
- 2020.7.10. 梅雨の末期 各地で集中豪雨災害 お見舞い申し上げます

9月 いまだにコロナの厳しい毎日 いかがでしょうか

真青な青空 秋の風 田圃には黄金色の稲穂がゆれ、畔を真っ赤な彼岸花 素晴らしい秋景色
年寄りには厳しい今年の秋 なんとなく 仲間が気になり、人恋しい
うまい空気を胸一杯 吸い込んで 気分も新らた God Be With You!!
朝が来れば「よしっ」と元気に今を

【From Kobe 2020 秋 】爽やかな秋の風を一杯吸い込んで 2020.9.22.

- 収録 ■ まだ続くのか? 年寄り仲間うち内閣 もううんざり 朝日も皮肉った紙面満載!
最近の風潮に疑問一杯 「知恵の学び・行動を軽んじ、自ら考えることを放棄
通信・情報・AI そのものに頼る」

- 余計なお世話ですが、カード頼りの通帳記載せぬ危うさにご用心
ドコモ口座事件 一番わかりやすいと感じたインターネット解説
鈴木貴博：百年コンサルティング代表

ドコモ口座パニック拡大、他人事ではない「本当に怖い落とし穴」より 2020.9.18.

11月 コロナ禍「3密」行動節制が続く中で 秋が猛烈なスピードで駆け抜けてゆく

秋晴れの空に里は秋桜・そして秋のバラが秋を彩る 秋の味覚も届き 里では秋の収穫に忙しい秋景色
でも、祭りの便りや賑わいもなく なんとなく物足りない11月の始まり
先の暮らしに不安は募りますが、愚痴は言うまい

ゆっくりとわが道を振り返りつつ 秋の夜長を楽しむ

若者は生意気ぐらいかちょうどいい 年寄りは…………

自分のことばかりは言っておれないのですが、好奇心と気力さえあればと
「変えよう 変わろう でも変えてはならぬこともしっかりと」
とりとめもないことばかりですが、気持ちだけは前向いと。

また、困難の中にある仲間思いを馳せつつ エールを送ります

仲間がいる 仲間の元気はみんなの応援歌 みんなでスクラム組んで 元気に今を

God Be With You!! 2020.11.1. 爽やかな秋の風を一杯吸い込んで

【From Kobe 秋 11月 コロナ禍の中で】秋が猛烈なスピードで駆け抜けてゆく 2020.11.1.

2020年の秋を明るくしてくれた秋の草花 秋 11月 コロナ禍の中で 季節の便り届けます

- 収録 1 コロナ禍の中で見たインターネット・通信にははびこる無責任
無責任な通信・SNS など通信仲介業に仲介責任がとれないのか?
- 2 政権交代一か月 新聞等を読んで もう老練政治家から若者へ政治をわたしては・・・
老練が負け惜しみで口にするパワーも知恵も・スピードも
それに裏付けられた判断・直観力も若者はみんな持っている

12月 師走 コロナウィルスの猛威が止まらぬ師走





コロナ禍の3波が急速に拡大、出口が見いだせない中で一年が過ぎてゆく
 街も家でも「3密」自製のコロナに振り回された一年 師走の雰囲気もなし
 残念ながら神戸ルミナリエも中止、クリスマス飾りも控え目
 でも 神戸にはルミナリエに託した思いがふつつと・・・
 今年一年 いろんな思いが駆け巡る師走です

【From Kobe 12月 コロナ禍の中で】 コロナウィルスの猛威が止まらぬ師走 2020.12.5.

2020 12月 師走 コロナ禍の中で コロナ収束の道はみんなの願い 季節の便り届けます

街も人も「3密」防止の行動規制に取り組んで 平常の日々と変わらぬコロナと向き合う師走です

●収録 コロナ感染者急増の3波襲来の中で、もう一度基本を問い直そう

私がなにを思ってきたか それがいまの私をつくっている
 あなたがなにを考えてきたか それがいまのあなたそのもの
 世界はみんなのところで決まる 世界はみんなのところで変わる
 谷川俊太郎 「こころの色」より

何はともあれ、近々の課題 早く収束の出口を見たい。ワクチン開発が今一つ希望の出口。
 これもみんなに行き渡るようにと期待しています。勝手なことをぶつぶつ 他意なく、好奇心のみです。
 もともと我慢が苦手。ますますわがままに。心せねば……と。

「変えよう 変わろう でも変えてはならぬこともしっかりと」

健康でいることに感謝しつつ、知恵と判断力と行動力そして好奇心 この思いを失わぬようと。



新しい年を迎え、コロナ終息へ向けて もうひと頑張り

みんながみんな笑顔で暮らせる日が取り戻せますよう願っています。

また一年 よろしくお祈りします 2021.1.5. by Mitsu Nakanishi



ドイツ メルケル首相 最後の新年演説 コロナウィルスに向き合うにあたって

「国民に心の底から感謝」「愛する人たちを守ってください」全文 2020.12.31.

2020.1.5. インターネットより採取

[ベルリン 31日 ロイター]

ドイツのメルケル首相は、新年を迎えるにあたっての国民向けの演説で、首相を務めた15年間で2020年が最も困難な年だったと振り返った。一方、新型コロナウイルスワクチンの接種開始により、2021年は希望の年になるとも強調した。首相はロックダウン（都市封鎖）への抗議活動を非難し、ワクチンが普及すれば自身も接種する考えを示した。66歳のメルケル首相は「最後に個人的なことをお話したい。9カ月後に議会選挙があるが、私は出馬しない」と表明。「これが私の最後の新年へのメッセージになる」と述べた。



その上で「15年間のなかで、この1年ほど厳しく感じた年はない。また、懸念や懐疑論もある中、新年をこれほどの期待感を持って待ちわびたこともなかった」とした。

首相は、新型コロナの存在を否定する陰謀論者について「コロナ感染で愛する人を失った人、感染の影響に苦しんでいる人にとっては、苦々しいことだろう。陰謀論は誤りで危険だけでなく、残酷でもある。順番が来たら、私もワクチンを接種する」と付け加えた。

◎ コロナウィルスに向き合うにあたって：独メルケル首相の新年演説 全文

大野インクジェットコンサルティング (ohno-inkjet.com) 大埜氏訳文

<https://ohno-inkjet.com/?p=27731>

親愛なる国民の皆様

コロナウィルスは現在わが国の生活を劇的に変化させています。私たちが考える日常や公的生活、社会的な付き合い — こうしたものすべてがかつてないほど試されています。

何百万人という方々が出勤できず、子どもたちは学校あるいはまた保育所に行けず、劇場や映画館やお店は閉まっています。そして何よりも困難なことはおそらく、いつもなら当たり前前の触れ合いがなくなっているということでしょう。もちろんこのような状況で私たちはみな、これからどうなるのか疑問や心配事でいっぱいです。

私は今日このような通常とは違った方法で皆様に話しかけています。

それは、この状況で連邦首相としての私を、そして連邦政府の同僚たちを何が導いているのかを皆様に伝えたいからです。

開かれた民主主義に必要なことは私たちが政治的決断を透明にし、説明すること、

私たちの行動の根拠をできる限り示して、それを伝達することで、理解を得られるようにすることです。

もし、市民の皆さんがこの課題を自分の課題として理解すれば、私たちはこれを乗り越えられると固く信じています。

このため次のことを言わせてください。**事態は深刻です。あなたも真剣に考えてください。**

東西ドイツ統一以来、いいえ、第二次世界大戦以来、これほど市民による一致団結した行動が重要になるような課題がわが国に降りかかってきたことはありませんでした。

私はここで、現在のエピデミックの状況、連邦政府および各省庁がわが国のすべての人を守り、経済的、社会的、文化的な損害を押さえるための様々な措置を説明したいと思います。

しかし、私は、あなたが一人一人が必要とされている理由と、一人一人がどのような貢献をできるかについてもお伝えしたいと思います。

エピデミックについてですが、私がここで言うことはすべて、連邦政府とロバート・コッホ研究所の専門家やその他の

学者およびウイルス学者との継続審議から得られた所見です。

世界中で懸命に研究が進められていますが、コロナウイルスに対する治療法もワクチンもまだありません。

この状況が続く限り、唯一できることは、ウイルスの拡散スピードを緩和し、数か月にわたって引き延ばすことで時間を稼ぐことです。これが私たちのすべての行動の指針です。研究者がクスリとワクチンを開発するための時間です。

また、発症した人ができる限りベストな条件で治療を受けられるようにするための時間でもあります。

ドイツは素晴らしい医療システムを持っています。もしかしたら世界最高のシステムのひとつかもしれません。

そのことが私たちに希望を与えています。しかし、わが国の病院も、コロナ感染の症状がひどい患者が短期間に多数入院してきたとしたら、完全に許容量を超えてしまうことでしょう。

これは統計の抽象的な数字だけの話ではありません。お父さんであり、おじいさんであり、お母さんであり、おばあさんであり、パートナーであり、要するに生きた人たちの話です。そして私たちは、どの命もどの人も重要とする共同体です。

私は、この機会にまず、医師としてまたは介護サービスやその他の機能でわが国の病院を始めとする医療施設で働いている方すべてに言葉を贈りたいと思います。あなた方は私たちのためにこの戦いの最前線に立っています。あなた方は最初に病人を、そして、感染の経過が場合によってどれだけ重篤なものかを目の当たりにしています。

そして毎日改めて仕事に向かい、人のために尽くしています

あなた方の仕事は偉大です。そのことに私は心から感謝します。

さて、**重要なのは、ドイツ国内のウイルスの拡散スピードを緩やかにすることです。**

そして、その際、これが重要ですが、1つのことに賭けなければなりません。

それは、**公的生活を可能な限り制限することです。もちろん理性と判断力を持ってです。**国は引き続き機能し、もちろん供給も引き続き確保されることになるからです。私たちはできる限り多くの経済活動を維持するつもりです。

しかし、人を危険にさらす可能性のあるものすべて、個人を、また共同体を脅かす可能性のあるものすべてを今減らす必要があります。人から人への感染リスクを可能な限り抑える必要があります。

今でもすでに制限が劇的であることは承知しています。イベント、見本市、コンサートは中止、とりあえず学校も大学も保育所も閉鎖され、遊び場での遊びも禁止です。

連邦政府と各州が合意した閉鎖措置が、私たちの生活に、そして民主主義的な自己認識にどれだけ厳しく介入するか、私は承知しています。わが連邦共和国ではこうした制限はいまだかつてありませんでした。

私は保証します。旅行および移動の自由が苦勞して勝ち取った権利であるという私のようなものにとっては、このような制限は絶対に必要な場合のみ正当化されるものです。

そうしたことは民主主義社会において決して軽々しく、一時的であっても決められるべきではありません。

しかし、それは今、命を救うために不可欠なのです。

このため、国境検査の厳格化と重要な隣国数か国への入国制限令が今週初めから発効しています。

経済全体にとって、大企業も中小企業も、商店やレストラン、フリーランサーにとっても同様に、今は非常に困難な状況です。今後何週間かはいっそう困難になるでしょう。

私は皆様に約束します。連邦政府は、経済的影響を緩和し、特に雇用を守るために可能なことをすべて行います。

わが国の経営者も被雇用者もこの難しい試練を乗り越えられるよう、連邦政府は、必要なものをすべて投入する能力があり、またそれを実行に移す予定です。

また、皆様は、食料品供給が常時確保されること、たとえ1日棚が空になったとしても補充されること信じて安心してください。スーパーに行くすべての方にお伝えしたいのですが、備蓄は意味があります。ちなみにそれはいつでも意味のあるものでした。けれども限度をわきまえてください。

何かがもう二度と入手できないかのような買い占めは無意味ですし、つまるところ完全に連帯意識に欠けた行動です。

ここで、普段あまり感謝されることのない人たちにもお礼を言わせてください。このような状況下で日々スーパーのレジに座っている方、商品棚を補充している方は、現在ある中でも最も困難な仕事のひとつを担っています。同胞のために尽力し、言葉通りの意味で**お店の営業を維持して下さりありがとうございます。**

さて、今日私にとって最も緊急性の高いものについて申し上げます。私たちがウイルスの速すぎる拡散を阻止する効果的な手段を投入しなければ、あらゆる国の施策が無駄になってしまうでしょう。その手段とは私たち自身です。

私たちの誰もが同じようにウイルスにかかる可能性があるように、今誰もが皆協力する必要があります。

まず第一の協力は、今日何が重要なのかについて真剣に考えることです。

パニックに陥らず、しかし、自分にはあまり関係がないなどと一瞬たりとも考えないことです。不要な人など誰もいません。私たち全員の力が必要なのです。

私たちがどれだけ脆弱であるか、どれだけ他の人の思いやりのある行動に依存しているか、それをエビデミックは私たちに教えます。また、それはつまり、どれだけ私たちが力を合わせて行動することで自分たち自身を守り、お互いに力づけることができるかということでもあります。

一人一人の行動が大切なのです。私たちは、ウイルスの拡散をただ受け入れるしかない運命であるわけではありません。

私たちには対抗策があります。つまり、**思いやりからお互いに距離を取る**ことです。

ウイルス学者の助言は明確です。握手はもうしない、頻繁によく手を洗う、最低でも 1.5 メートル人との距離を取る、特にお年寄りには感染の危険性が高いのでほとんど接触しないのがベスト、ということです。

こうした要求がどれだけ難しいことか私は承知しています。緊急事態の時こそお互いに近くにいたいと思うものです。

私たちが好意を身体的な近さやスキンシップとして理解しています。

けれども、残念ながら現在はその逆が正しいのです。これはみんなが本当に理解しなければなりません。今は、距離だけが思いやりの表現なのです。

よかれと思ってする訪問や、 unnecessary な旅行、こうしたことすべてが感染を意味することがあるため、現在は本当に控えるべきです。専門家がこう言うのには理由があります。おじいちゃんおばあちゃんと孫は今一緒にいてはいけない、と。 unnecessary な接触を避けることで、病院で日々増え続ける感染者の世話をしているすべての方々を助けることになります。こうして命を救うのです。多くの人にとってこれはきついことでしょう。誰も一人にしないこと、声かけと希望が必要な方たちの世話をすることも重要になってきます。私たちが家族として、また社会として別の相互扶助の形を見つけるでしょう。

今でもすでに、ウイルスとその社会的影響に対抗する創造的な形態が出てきています。今でもすでに、おじいちゃんおばあちゃんがさみしくないようにポッドキャストをするお孫さんたちがいます。

私たちが皆、好意と友情を示す別の方法を見つけなければなりません。

スカイプや電話、イメール、あるいはまた手紙を書くなど。郵便は配達されるのですから。自分で買い物に行けないお年寄りのための近所の助け合いの素晴らしい例も今話題になっています。まだまだ多くの可能性があるとは私は確信しています。私たちがお互いに一人にさせないことを社会として示すことになるでしょう。

皆様をお願いします。今後有効となる規則を遵守してください。私たちが政府として、何が修正できるか、また、何がまだ必要なかを常に新たに審議します。

状況は刻々と変わりますし、私たちがその中で学習能力を維持し、いつでも考え直し、他の手段で対応できるようにします。そうなればそれもご説明します。このため、皆様をお願いします。

噂を信じないでください。公的機関による発表のみを信じてください。発表内容は多くの言語にも翻訳されます。

私たちが民主主義社会です。私たちが強制ではなく、知識の共有と協力によって生きています。

これは歴史的な課題であり、力を合わせることでしか乗り越えられません。

私たちがこの危機を乗り越えられるということには、私はまったく疑いを持っていません。

けれども、犠牲者が何人出るのか。どれだけ多くの愛する人たちを亡くすることになるのか。

それは大部分私たち自身にかかっています。私たちが今、一致団結して対処できます。現在の制限を受け止め、お互いに協力し合うことができます。

この状況は深刻であり、まだ見通しが立っていません。それはつまり、一人一人がどれだけきちんと規則を守って実行に移すかということにも事態が左右されるということです。

たとえ今まで一度もこのようなことを経験したことがなくても、私たちが、思いやりを持って理性的に行動し、それによって命を救うことを示さなければなりません。それは、一人一人例外なく、つまり私たち全員にかかっているのです。皆様、ご自愛ください、そして愛する人たちを守ってください。ありがとうございました。

参 考

メルケル首相 TV 演説 新型コロナウイルス感染症対策について 訳文 2020.3.18.

「事態は深刻です。皆さんも深刻に捉えていただきたい。

ドイツ統一、いや、第二次世界大戦以来、我が国における社会全体の結束した行動が、
ここまで試された試練はありませんでした。」

新型コロナウイルス感染症対策に関するメルケル首相のテレビ演説（2020年3月18日）ドイツ外務省

<https://japan.diplo.de/ja-ja/themen/politik/-/2331262>

新型コロナウイルスにより、この国の私たちの生活は今、
急激な変化にさらされています。

日常性、社会生活、他者との共存についての私たちの常識が、
これまでにない形で試練を受けています。

何百万人もの方々が職場に行けず、お子さんたちは学校や
保育園に通えず、劇場、映画館、店舗は閉まっています。
なかでも最もつらいのはおそらく、これまで当たり前だっ
た人と人の付き合いができなくなっていることでしょう。
もちろん私たちの誰もが、このような状況では、今後どう
なるのかと疑問や不安で頭がいっぱいになります。



本日は、現下の状況における首相としての、また政府全体としての基本的考えをお伝えするため、
このように通常とは異なる形で皆さんにお話することになりました。

開かれた民主主義のもとでは、政治において下される決定の透明性を確保し、説明を尽くすことが必要です。

私たちの取組について、できるだけ説得力ある形でその根拠を説明し、発信し、理解してもらえるようにするのです。
本当に全ての市民の皆さんがご自身の課題と捉えてくだされば、この課題は必ずや克服できると私は固く信じています。

ですから申し上げます。事態は深刻です。皆さんも深刻に捉えていただきたい。

ドイツ統一、いや、第二次世界大戦以来、我が国における社会全体の結束した行動が、ここまで試された試練はありませんでした。

私からは、感染拡大の現状についてご説明するとともに、政府や国・地方自治体の機関が、共同体の全ての人を守り、
経済・社会・文化の損失を抑え込むためにどのような取り組みを進めているかをお話しします。

さらにそうした取組において、なぜ皆さんが必要なのか、一人ひとりに何ができるのかについてもお伝えしたいと思います。

さて、感染拡大に関してですが、これについて私がお話しすることは全て、政府と、ロベルト・コッホ研究所の専門家、
その他の研究者、ウイルス学者の人々との継続的な協議に基づいています。

現在、世界中で急ピッチで研究が進められていますが、未だ、新型コロナウイルスの治療法もワクチンも開発されてい
ません。こうした状況において、あらゆる取り組みの唯一の指針となるのは、ウイルスの感染拡大速度を遅くする、数
カ月引き延ばす、そして時間を稼ぐということです。時間を稼ぎ、研究者に治療薬とワクチンを開発してもらいます。
同時に、発症した人ができるだけよい医療を受けられるようにするための時間稼ぎでもあります。

ドイツは、世界有数ともいえる優れた医療体制を誇っています。このことは安心材料ではありません。

ただし、あまりに多数の重症患者が極めて短期間のうちに搬送されるようなことになれば、我が国の医療機関も対処
できない状況に陥ってしまうでしょう。これは単なる抽象的な統計数値で済む話ではありません。

ある人の父親であったり、祖父、母親、祖母、あるいはパートナーであったりする、実際人間が関わってくる話なの
です。そして私たちの社会は、一つひとつの命、一人ひとりの人間が重みを持つ共同体なのです。

この機会に何よりもまず、医師、看護師、あるいはその他の役割を担い、医療機関をはじめ我が国の医療体制で活動してくださっている皆さんに呼びかけたいと思います。

皆さんは、この闘いの最前線に立ち、誰よりも先に患者さんと向き合い、感染がいかに重症化するかも目の当たりにされています。そして来る日も来る日もご自身の仕事を引き受け、人々のために働いておられます。皆さんが果たされる貢献はとてつもなく大きなものであり、その動きに心より御礼を申し上げます。

現在の喫緊の課題は、ドイツに広がるウイルスの感染速度を遅らせることです。

そのためには、社会生活を極力縮小するという手段に賭けなければならない。これは非常に重要です。

もちろん、国の機能は引き続き維持され、物資の供給体制は確保され、経済活動は可能な限りの継続を図っていきますので、あくまでも理性と慎重さに基づいて行っていきます。

しかし今は、人々を危険にさらしかねないこと、個人あるいは共同体にダメージを与えかねないことをことごとく縮小していかなければならないのです。

人から人への感染リスクをできる限り抑えていかなければなりません。

日常生活における制約が、今すでにいかに厳しいものであるかは私も承知しています。

イベント、見本市、コンサートがキャンセルされ、学校も、大学も、幼稚園も閉鎖され、遊び場で遊ぶこともできなくなりました。連邦と各州が合意した休業措置が、私たちの生活や民主主義に対する認識にとりいかに重大な介入であるかを承知しています。これらは、ドイツ連邦共和国がかつて経験したことがないような制約です。

次の点はしかしぜひお伝えしたい。

こうした制約は、渡航や移動の自由が苦難の末に勝ち取られた権利であるという経験をしてきた私のような人間にとり、絶対的な必要性がなければ正当化し得ないものなのです。

民主主義においては、決して安易に決めてはならず、決めるのであればあくまでも一時的なものにとどめるべきです。しかし今は、命を救うためには避けられないことなのです。こうしたことから、今週はじめより、いくつかの重要な近隣諸国との国境において、国境管理と入国制限措置が強化されています。

大企業・中小を問わず企業各社にとり、また小売店、飲食店、フリーランスの人たちにとり、状況はすでに非常に厳しくなっています。そしてこれからの数週間、状況は一層厳しくなるでしょう。

政府は、経済的影響を緩和し、特に雇用を維持するため、あらゆる手段を尽くす考えであり、このことを私は皆さんにお約束します。私たちには、この厳しい試練に直面する企業や労働者を支援するために必要なあらゆる策を講じる力があり、また意思があります。

また、食糧供給は常時確保されていますので、どうか安心していただきたい。たとえ商品の棚が一日空になることがあったとしても、商品は補充されます。スーパーに買物に行かれる方に申し上げたいのですが、ストックの買い置きが有意義であるのは、何も今に始まったことではありません。しかしそれは、節度を守ってこそ、です。商品が二度と手に入らないかのごとく買い占めに走るのは無意味であり、結局、他者への配慮に欠ける行為となります。

さてここで、感謝される機会が日頃あまりにも少ない方々にも、謝意を述べたいと思います。スーパーのレジ係や商品棚の補充担当として働く皆さんは、現下の状況において最も大変な仕事の一つを担っています。皆さんが、人々のために働いてくださり、社会生活の機能を維持してくださっていることに、感謝を申し上げます。

ここで、本日、私にとって最も重要な点についてお話しします。国がどのような対策を講じても、急速なウイルス感染拡大に対抗する最も有効な手段を用いないのであれば、それは徒労に終わってしまいます。最も有効な手段とは、私たち自身です。誰もが等しくウイルスに感染する可能性があるように、誰もが助け合わなければなりません。まずは、現在の状況を真剣に受け止めることから始めるのです。そしてパニックに陥らないこと、しかしまた自分一人がどう行動してもあまり関係ないだろう、などと一瞬たりとも考えないことです。関係のない人などいません。全員が当事者であり、私たち全員の努力が必要なのです。

感染症の拡大は、私たちがいかに脆弱な存在で、他者の配慮ある行動に依存しているかを見せつけています。しかしそれは、結束した対応をとれば、互いを守り、力を与え合うことができるということでもあります。

まさに、一人ひとりの取り組みにかかっているのです。私たちは、ウイルス感染拡大を無抵抗に受け入れる以外になすすべがないわけではありません。私たちには対抗する手段があります。

それは、互いへの配慮から人との間に間隔を置くことです。

ウイルス学者の助言ははっきりしています。握手はしない、手洗いを頻繁かつ徹底して行う、他の人との間隔を最低1.5メートルあける、そして今は、特にリスクの高い高齢者との接触を極力避ける。

これらを実際に行うのが私たちにとっていかに大変なことか、私も承知しています。

困難な時期であるからこそ、大切な人の側にいたいと願うものです。私たちにとって、相手を慈しむ行為は、身体的な距離の近さや触れ合いを伴うものです。しかし残念ながら現状では、その逆こそが正しい選択なのです。今は、距離を置くことが唯一、思いやりなのだということを、本当に全員が理解しなければなりません。

よかれと思って誰かを訪問したり、不要不急の旅行に出かけたりすることが、感染につながりかねない今、こうした行動は控えるべきです。

専門家の方々が今は祖父母と孫が会わないほうがよい、と助言しているのは、十分な根拠があるからこそなのです。

不要な接触を避けることは、感染者数の増加に日々直面している全ての医療機関関係者のサポートになります。

そうすることで私たちは命を救っているのです。

接触制限は多くの人にとって厳しいものであり、だからこそ、誰も孤立させないこと、励ましと希望を必要とする人のケアを行っていくことも重要になります。私たちは、家族や社会として、これまでとは違った形で互いを支え合う道を見つけていくことになるでしょう。

ウイルスが社会に与える影響に対し、さまざまな形で立ち向かおうとする創意工夫が見られます。おじいさん、おばあさんが寂しくならないよう、ポッドキャストを録音してあげるお孫さんなども一例でしょう。

私たちは皆、親愛や友情を表す手段を見出していかなければなりません。それはスカイプ、電話、メールであったり、あるいは郵便の配達が続いていますから手紙であったりするかもしれません。買物に行けない高齢の人を近所の人が支援する活動など、素晴らしい取り組みの例を耳にしますし、きっと他にもいろいろできることはあるでしょう。私たちは、互いに置いてきぼりにしないという共同体の姿勢を見せていきます。

皆さんに呼びかけます。どうか、今後しばらくの間適用されるルールを守ってください。政府としては、再び戻せるところはないかを継続的に点検していきます。しかし、さらに必要な措置がないかについても検討を続けます。

事態は流動的であり、私たちは、いつでも発想を転換し、他の手段で対応ができるよう、常に学ぶ姿勢を維持していきます。新たな手段をとる場合には、その都度説明を行っていきます。

ですから皆さん、どうか噂話は信じないでください。様々な言語にも翻訳されている公式な発表だけを信じてください。我が国は民主主義国家です。私たちの活力の源は強制ではなく、知識の共有と参加です。現在直面しているのは、まさに歴史的課題であり、結束してはじめて乗り越えていけるのです。

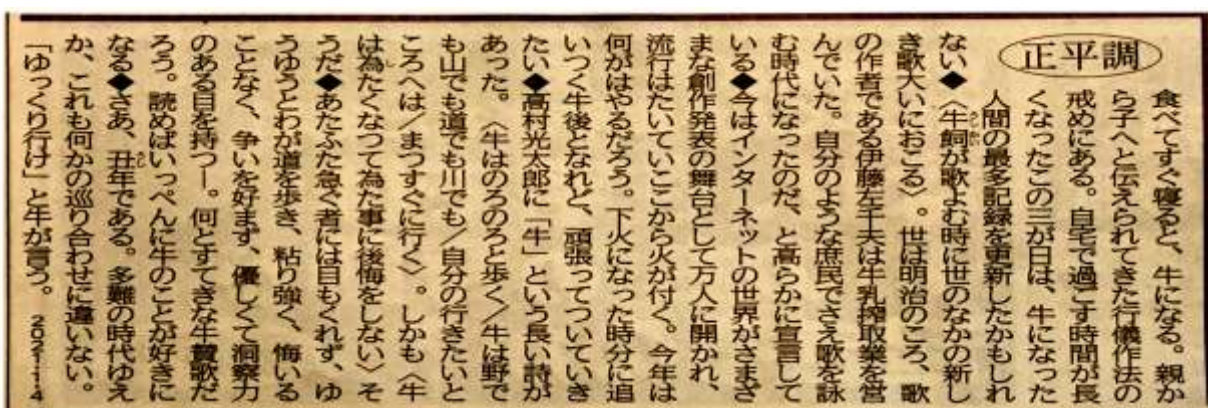
私たちはこの危機を克服していくと、私は全く疑っていません。ただ、犠牲者数はどれほど増えるでしょうか？私たちは大切な人を何人、失うことになるでしょうか？このことは相当程度、私たち自身の行動にかかっています。今こそ、固い決意のもと、皆でともに行動するときです。制約を受け入れ、互いに助けあうのです。

現状は深刻ですが、この先はいろいろな展開があり得ます。ということは、一人ひとりがどれだけ自制してルールを守り、実行するかが、全てではないにせよ、今後の展開を決める一つの要素なのです。

かつて経験したことのない事態ではありますが、私たちは、思いやりと理性を持って行動し、命を救っていくことを示していかなければなりません。例外なく全ての人、私たち一人ひとりが試されているのです。

皆さんご自身と大切な人の健康に気をつけてください。ご静聴ありがとうございました。

ドイツ外務省 総領事館 <https://japan.diplo.de/ja-ja/themen/politik/-/2331262>



2021.1.4. 神戸新聞朝刊「平正調」より

